

2026年1月7日・17日

主催:(一般社団法人)障がい児成長支援協会

共催:講演会事務局 A to Z Academy

児童発達支援・放課後等デイサービス

小学校入学までに身につけるべき力と、 小学校入学までにやるべきこと

- 言語の遅れに対する対応と、知的能力を伸ばすための療育内容
- 支援が必要な子供たちへの声のかけ方（ほめ方・叱り方）

(一般社団法人)障がい児成長支援協会 代表理事・協会長
中部学院大学 非常勤講師 山内 廉彦

講師紹介…当事者だから気持ちが分かる

◎学校一番の問題児が先生（専門家）になった

子どもは環境によって“成長”が変わる

◎種は同じロシアひまわり ◎植えた時期も同じ



“療育の質”によっても成長が大きく変わる

◎畑は同じでも肥料の与え方によって大きく違う



療育の“時期”によって成長が大きく変わる

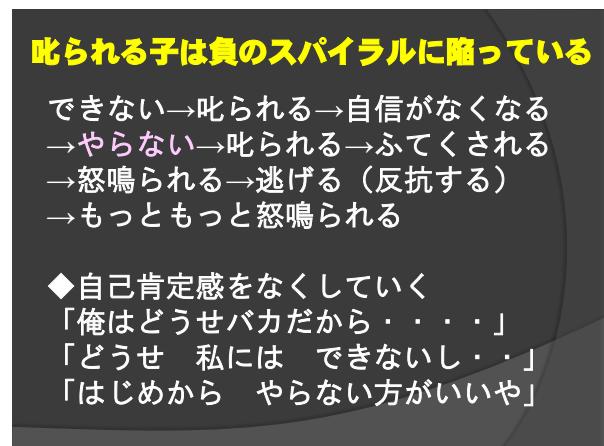
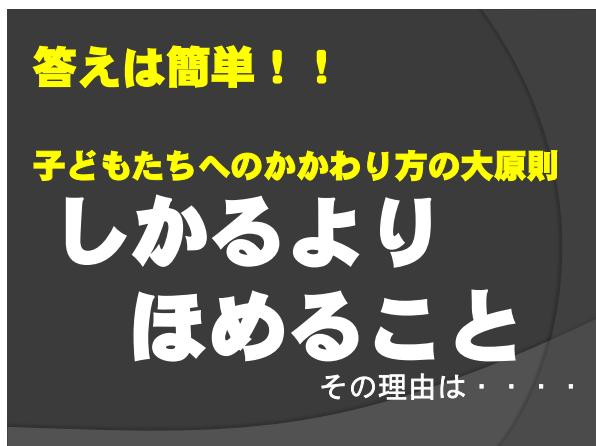
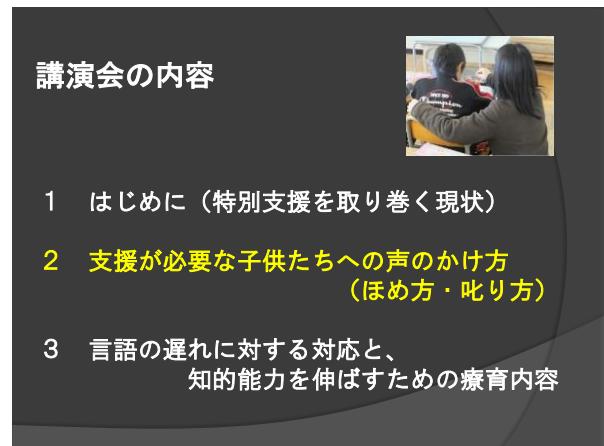
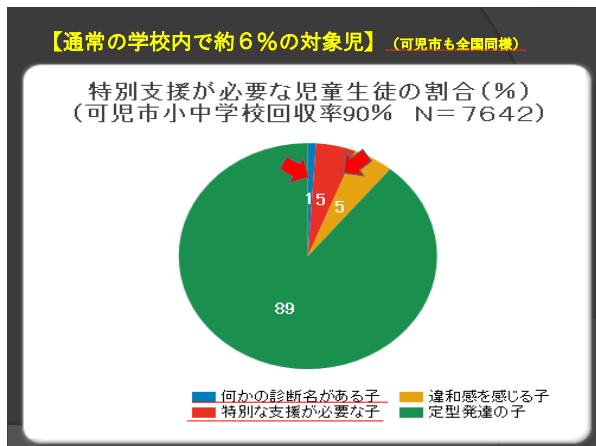
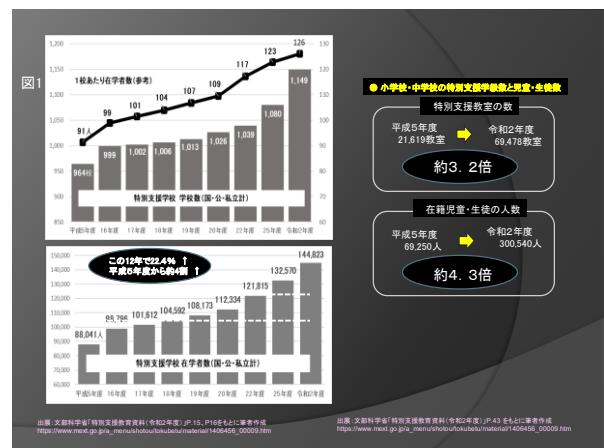
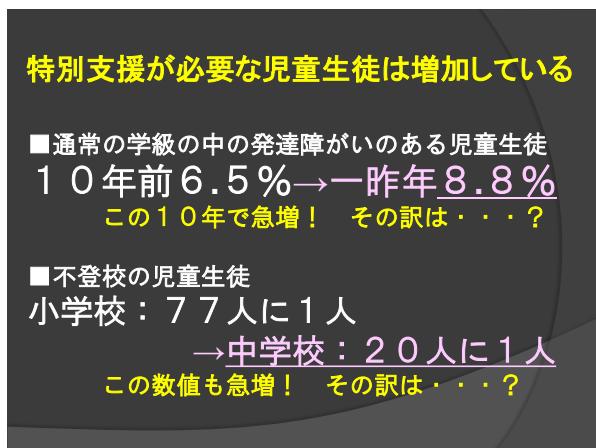
◎後から肥料を与えても・・・与える時期が重要



講演会の内容



- はじめに（特別支援を取り巻く現状）
 - 支援が必要な子供たちへの声のかけ方
(ほめ方・叱り方)
 - 言語の遅れに対する対応と、
知的能力を伸ばすための療育内容



ほめること… 当たり前で一番大切

そのポイントは以下の3点

☆この順番も大切

- 1 位置づけ
- 2 価値づけ
- 3 方向づけ

今回の講演会では……付け加えて

子どもを伸ばす親のかかわり方は
発展していく。

- 1 手をかける
 - 2 目をかける
 - 3 気を配る
- ※2と3を特に大切にする。

それでは……

- 問題になっていることに対して
どのように取り組めばよいか。
- 1 課題（問題点）を全て書き出す
 - 2 取り組みやすい順にならべる
 - 3 数個と期間を決めて取り組む

※本人が主体的に選択する
※関係諸機関と一緒に取り組む

ほめることでよいスパイラルに変えていく

できる→ほめられる→自信がつく→やる
→またほめられる→もっともっとやる
→どんどんできる→更にほめられる
→より高い目標に向かって取り組む

◆自己肯定感を高めていく
「ぼくは、計算は得意なんだ。」
「調理が好きでコックさんになりたい」
「勉強は苦手だけどやさしい子です」

叱ることも大切

ダメなことはダメ
社会で通用しないことは
子どものうちからしつけをする

- ◆スポーツの世界でもレッドカード
- ◆警察で言えば……
- ・発達障がいに対して基本的に
減刑はありません……

叱ることは、裏を返すと「ほめること」
何をやっても怒るガミガミお母さんは▲

叱る・ほめる観点を事前に明確にする

- ①殴るなどの暴力は絶対許しません
→お手伝いなど相手にやさしい行動
 - ②「殺す」「うざい」などの暴言もNG
→あいさつやお礼など温かい言葉
 - ③3回同じことを注意されたら厳しく
→言われる前に自分で考えて行動する
- ☆なぜ叱られるのかを本人や周りが納得
していることが大切

知らなかつたでは済まされない

学校をはじめ各種機関ではもっとよい
様々なサービスを受けることができる
しかし、向こうから教えてくれない！！
→よいサービスは保護者が請求する
なぜ、向こうから教えてくれないか
(※税金の控除も申告制ですね)
全員にそのサービスができないから
※公務員の最大の欠点の一つ！！
◎医師など専門家の意見書が有効！

講演会の内容



- 1 はじめに（特別支援を取り巻く現状）
- 2 支援が必要な子供たちへの声のかけ方
(ほめ方・叱り方)
- 3 言語の遅れに対する対応と、
知的能力を伸ばすための療育内容

言葉の遅れは全ての遅れにつながる

- ①知能検査は、言葉で質問されたことを言葉で応える内容が多い。よって言葉の遅れが大きい子は知能指数が低く出る傾向がある。
- ②言葉の遅れがあるとコミュニケーションの力も当然下がる。となると適応能力（社会性）も低く評価される。

療育の中でも言語療育は重要

ただ“療育”に力を入れすぎて修行になってしまはいけない！『楽しく療育』がポイント！

知らなかつたでは済まされない

☆文句を言う前に情報を知って
「かしこい親」になります

※「個別の支援計画の作成」

5領域（「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」）
保護者と相談のもと学校が中心になって作成。様々な機関も巻き込んで、有効な支援を書類の中に残していく。担当が変わっても残る。（放課後等ディとも連携して作成）

小学校までに身につけさせたいこと

『知的能力』と『適応能力』

- 1 知的能力→『学校の勉強』『知能指数』
 - 2 適応能力→『社会性』
- ◎両方大切ではあるが・・・

まず大切なのは適応能力（社会性）
とはいっても、知的能力を高めたい
そこで今回は『知的能力の向上』に
スポットをあててお話をします。

発育発達期の身体的特徴

スキヤモンの発育曲線から
なんと神経系（脳など）は7歳までに成人の95%の大きさまで発達する。

幼児期～中学年にかけて感覚や、
神経・筋コントロール能力の向上
が著しい。つまり、今が大切！！

よく言われる“都市伝説”は本当！

- ①絶対音感は遅くとも7歳まで！
- ②体操選手は3歳から！
- ③英語教育は小学校前から！
- ④ことばの教室は小2まで…
(例えば“吃音”の指導)

治す訓練から付き合う訓練へ

【家庭でもできる言語療育の具体例】

※発語ないお子さんへの療育例→指さしから開始
※お菓子やストローを使って発語の促進！

発育発達期の身体的特徴② 運動も同じ

ゴールデンエイジ（9～12歳）

「即座の習得」という特徴

※「プレゴールデンエイジ」における基本的な動きの習得が大前提

プレゴールデンエイジ（5～8歳）

様々な動きを経験することが大切

家庭でもできる子どもを伸ばす療育① 『指遊び』(脳と末梢神経の伝達)

- ①片手でやってみる(親指と小指を交互に出す)
- ②反対の手でやってみる。
- ③両手でやってみる。
- ④スピードを速くしてやってみる。
- ⑤“もし亀のリズム”でやってみる。

※まずは、できるゆっくりスピードからはじめる。あくまで遊びなので、“できる”“できない”に強くこだわらないことが大切。

家庭でもできる子どもを伸ばす療育② 『暗記遊び』ワーキングメモリーを高める

- ①歌を歌いながら
♪八百屋のお店にならんだ品物見てごらん♪
話してごらん、覚えてごらん、はいはいハイ！
 - ②一人目の人が好きな物を言う…りんご
 - ③二人目の人は、りんごの後に好きな物を言う
りんご…バナナ
 - ④三人目の人は、どんどん増える
りんご…バナナ…みかん
- ※みんなで手を叩きながらリズムや歌を歌う
そして覚える遊びをする。

家庭でもできる子どもを伸ばす療育③ 『発語』の前に“指さし”ができるようにする

お子さんが二足歩行する順は…

①ハイハイ→②つかまり立ち→③二足歩行
では、発語については…

①微笑見返し→②指さし→③発語

※まずは、“指さし”ができるようにすること！

(例) ②赤色と青色どちらにする?
▲お茶のむ? ▲これ食べなさい
→二択から三択へ

山内が20年間学校の担任をした経験から

①身辺自立

※衣服の着脱、食事、排泄などの身辺自立に関する生活能力

【自分で起床できるかについて調査】

なんと 小1→約50%

小6→約70%

中3→約70%

身につく時期に身につけさせないともう身につかない！ 手遅れになる！

できることからの出発



《通常の教育》
「できないこと 新たなことへの
チャレンジ教育」

今までにできた経験・成功体験が多いから進んで取り組むことができる。

《特別支援教育》

「できることからの出発の教育」
成功体験を積み重ねて自信をつけさせる

ゲームとYouTubeの子守には注意を！

《注意》

「ゲーム」や「YouTuber」の子守は厳禁！
将来取り返しの付かないツケがまわってきます

ICD11(WHOの診断基準)

○アルコール依存症

○ギャンブル依存症

○ゲーム障害(新)……同じ精神病

つまり、ゲームを毎日3時間する子は、毎日3時間飲酒したり、パチンコするのと同じ！？

ご清聴ありがとうございました



オススメ ほめる育て方や進路についてわかる本！

- ①特別支援教育って何？
- ②特別支援が必要な子どもの進路の話
- ③特別支援が必要な子どもの「就労・進学・進路」相談室
- ④特別支援が必要な子どもの高等学校進学の話

WAVE出版→書店・Amazon等で購入可能！

